

# 新潟市の下水道事業

快適な環境づくりと安全・安心な暮らしを守るために、下水道処理区域の拡大、浸水対策の推進、下水道資源の有効活用を進めています。

## 下水道の全体計画



	処理区	計画面積(ha)	計画人口(千人)
単 独 流 域 関 連	船見	466	36.9
	中部	4,591	266.4
	白根	1,235	49.7
	新潟	5,230	208.1
	新津	2,516	82.1
	新井郷川	2,931	85.4
	西川	4,662	135.0
その他	金池	7	0.2
	計	21,638	863.8
単 独 結 算	島見	(56)	(2.3)

- 昭和27年 下水道事業に着手
- 昭和42年 船見下水処理場の運転開始
- 昭和55年 中部下水処理場  
新潟浄化センターの運転開始
- 昭和56年 新津浄化センターの運転開始
- 平成10年 新井郷川浄化センターの運転開始
- 平成14年 西川浄化センターの運転開始
- 平成16年 白根中央浄化センターの運転開始
- 平成18年 地方公営企業会計を一部適用

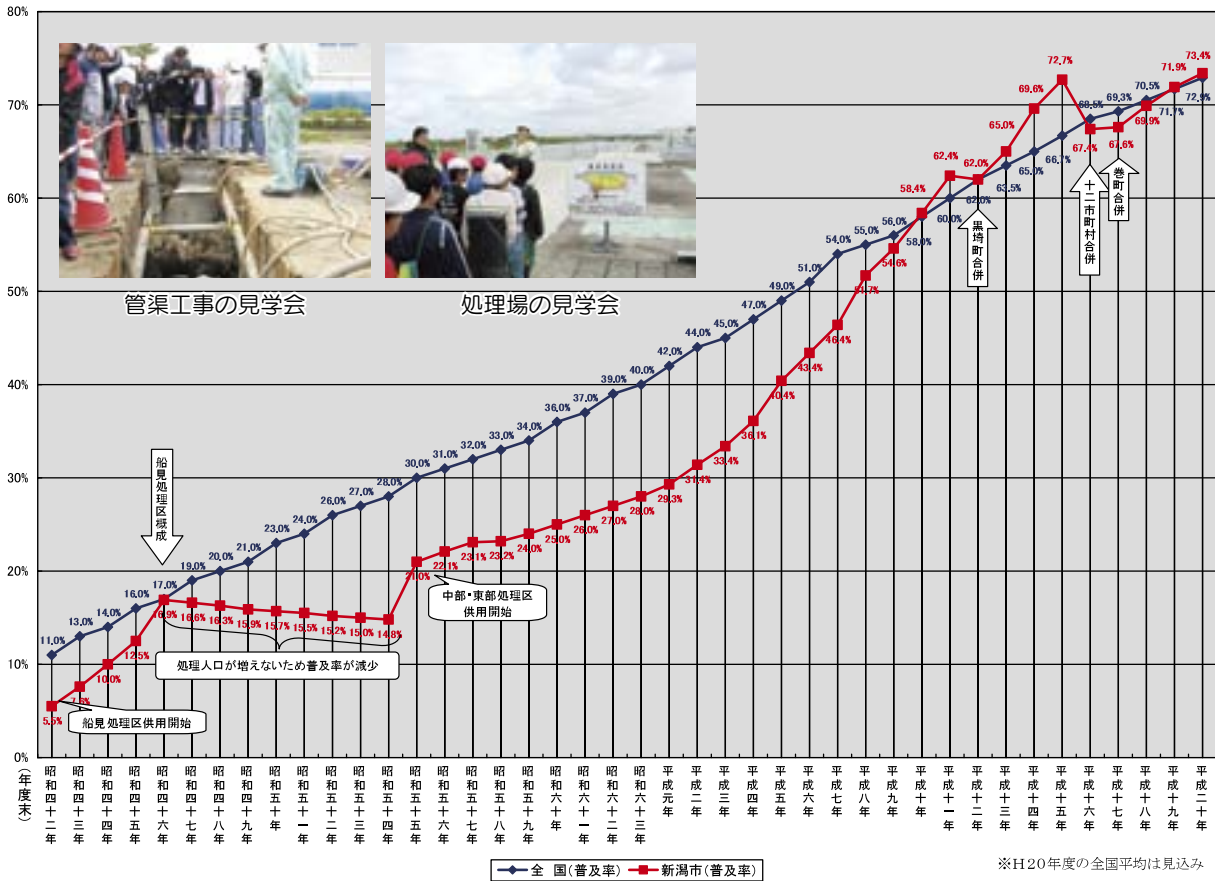


中部下水処理場

# 下水道の普及促進

衛生的で快適な生活環境の実現と良好な水循環の創出を図るため、公共下水道の整備を進めています。

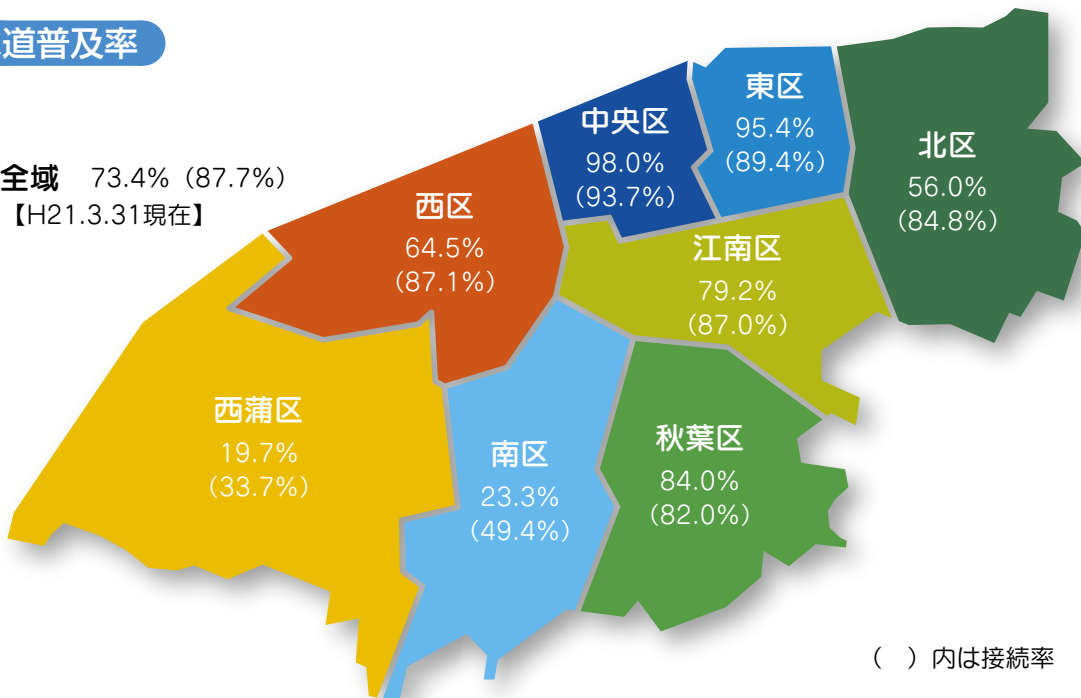
## 下水道処理人口普及率



下水道部

## 区別下水道普及率

新潟市全域 73.4% (87.7%)  
【H21.3.31現在】



( ) 内は接続率

# 総合的浸水対策

衛生的で快適な生活環境の実現と良好な水循環の創出を図るため、公共下水道の整備を進めています。

## 浸水対策（大規模事業）

木戸貯留施設



下山ポンプ場



下水道部

- 木戸貯留施設は、新潟市東区の木戸排水区の浸水対策として整備を進めています。
- 貯留量約58,000m<sup>3</sup>と本市の雨水貯留施設としては一番大きな施設となります。
- 総事業費約100億円、平成19年度に着手し事業を進めています。

- 下山ポンプ場は、新潟市東区の物見山排水区の浸水対策として整備を進めています。
- 排水量 $Q=36.5\text{m}^3/\text{秒}$ と本市の雨水ポンプ場としては最大級となります。
- 総事業費約160億円、平成13年度に着手し事業を進めています。

## 雨水流出抑制対策

宅地内の雨水貯留浸透施設

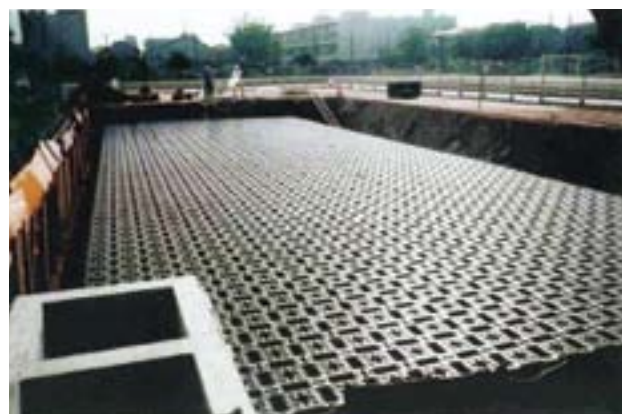


浸透ます

貯留タンク

- 雨水流出抑制事業として、平成12年度より市民へ雨水貯留浸透施設の設置助成制度を進めています。
- 平成20年度までに、約52,000基の雨水浸透ますと約2,100基の雨水貯留タンクの設置をしていただいています。

学校グラウンドの雨水貯留



- 雨水流出抑制事業として、平成12年度より学校のグラウンドや公共施設などに雨水貯留浸透施設の設置を進めています。
- 平成20年度までに、学校のグラウンドで55箇所に設置しています。

# 下水道中期ビジョン

本市の美しい自然・田園環境と安心・安全な暮らしを守り、市民の皆さまと協働してより効果的な事業運営を行うため、今後の基本方針や施策目的を明確にし、取り組むべき課題や施策を示した基本計画として「新潟市下水道中期ビジョン」(H20~30)を策定しました。

## 基本方針と施策体系

**【基本方針1】**  
美しい田園環境都市を  
守り育てる下水道

- 施策1 総合的な汚水処理の推進による未普及地域の解消
- 施策2 下水道接続率の向上
- 施策3 合流式下水道の改善
- 施策4 温室効果ガスの削減と下水道資源の有効利用

**【基本方針2】**  
安心・安全な暮らしを守る  
下水道

- 施策5 雨に強い都市づくり
- 施策6 地震対策の推進
- 施策7 下水道施設の機能確保と計画的な改築・更新

**【基本方針3】**  
市民と協働の力が育む  
下水道

- 施策8 経営の効率化と経営基盤の強化
- 施策9 下水道の「見える化」の推進

## ビジョン推進のまとめ

総合的な汚水処理の推進により未普及地域の解消に取り組みます。

- 市設置型合併処理浄化槽を導入
- 地域のニーズを踏まえ、最もコストのかからない効率的な整備手法を選択



雨に強いまちづくりに向け、ハード・ソフト・自助を組み合わせた総合的対策による浸水被害の最小化を推進します。

- 自助対策として、住宅かさ上げ助成を新設



経営の効率化に努め、できるだけ一般会計に頼らない自立した公営企業経営を目指します。

- 接続率の向上
- 資本費平準化債の活用